



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年8月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中!!!

「サークル研究班」企画学習会報告

テーマ「中越地震が教えてくれたこと」

講師：横浜YMCA 渡辺 誠二氏

2004年の中越地震の際、十日町にてボランティアセンター支援を行っていた渡辺氏に、被災地の様子、ボランティアとしての心得等々をお伺いしました。

阪神淡路大震災から12年経過した今でも独居死者は昨年だけで66人。家族・知人と同居している人の1.8倍。とのお話から始まり、震災が残す爪痕は、物理的なものに加え、精神面にも予想以上のダメージを与えるようです。

「一つとして同じ災害はない」ことを念頭において個別対応が必要とのこと。

繰り返しお話しされていたことは、日常的な備えと仕組み、顔の見える関係作りが大切ということ。

そして、ボランティアする側とされる側。過酷な精神状態の中、押しつけの親切は、益々被災者を精神的に追い込んでしまう結果になりかねません。常に、相手が望んでいることは何かを考えながら行動することが大切ですね。これは、手話を学び、聴覚者と交流するときも同じことだと思います。

災害に関しては、「人は皆、自分だけは死なない」と思っているから「明日は我が身」に意識を変えていきましょう!!

～ 定例会 ～

* 7/14 (土) 定例会を行いました*

9月に開催される、神通研集会の打ち合わせも大詰め。役割分担、タイムスケジュール等々を話し合いました。

今年度は「災害」を中心に意見交換を行います。「災害」への取り組みは、地域ごとに差がある状況で、まずは先進地域からの報告をしてもらい、出来ることから始めてみましょう。

また、災害時に必要な手話を出し、『挨拶』の手話と同じくらい広まる工夫をしていきたいと思います。

非常用小道具、非常食等の情報も流します。

多くのみなさまのご参加、お待ちしております。

【次回定例会】8月18 (土) 10:30～
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

手話に出会ってから5年。途中、夫の転勤で空白のときもありましたが、ますます手話の魅力に引き込まれていく今日この頃・・・

今年の私はちょっと違い、今までの反省を含め、時間の許す限りいろいろな活動をしていきたいと思っています。時には食事作りの手を抜いたりしながら、夫の理解の下、ろうの世界に飛び込んでいきたいと思っています。

～しゅんしゅんママ～